

We are SWCC Group

SWCCグループが新時代の扉を開く

私たちは2023年4月、SWCC株式会社として新たに出発しました。

「エネルギー・インフラ」「電装・コンポーネンツ」「通信・産業用デバイス」の

基盤事業3セグメントをより強化・深化させるだけでなく、

自らを果敢にトランスフォーメーションすることで持続的な成長へ。

SWCCの「今」と「目指す未来」をステークホルダーの皆さまにご報告します。

さらなる企業価値の創出、新たな成長軌道への挑戦

More Profitable

企業風土、ビジネスモデルの変革

SWCCパーパスで成長戦略を加速する。
成長投資により新領域へ展開し、
ソリューション提案型企業への転換を図ります。

詳しくは21～22ページ

More Powerful

「人」の変革

経営戦略と連動した人的資本戦略を推進。
時代の変化に対応できる
多様で優秀な人材の集団を目指します。

詳しくは25～26ページ



More Resilient

財務基盤の強化

ROIC経営の深化による資本収益性の向上。
収益の積み上げにより
財務基盤を強化します。

詳しくは22～24ページ

More Widely

新市場・新領域への展開

次世代のビジネス領域を切り拓くために、
既存事業と新領域を掛け合わせて、
SWCCの新たな優位性を創出します。

詳しくは27～28ページ

SWCC Purpose

時代の変化に対応し、新たな価値を創造する企業へ、
SWCCへの商号変更に伴い、私たちはパーパスを策定しました。

時代は、変化でできている。

私たちが、変化をしないわけにはいかない。

インフラだけじゃない。電線だけでもない。

つないでいるのは、昨日や、今日や、明日のこと。

この先も、人が和やかに生きるために。

いつかの、愛すべきあたりまえのために。

人を想う品質と信頼で、応えていく。

だから、情熱と輝きをたやさない。挑戦をやめない。

いま、あたらしいことを。

いつか、あたりまえになることへ。

パーパスに込めたSWCCの思い

時代は、変化でできている。

【社会的背景】

SWCCには「価値観の変化」と「持続可能な社会実現への貢献」が求められています。経済価値最大化のみならず、社会課題解決・持続的成長を追求し続けます。

私たちが、変化をしないわけにはいかない。

インフラだけじゃない。電線だけでもない。

つないでいるのは、昨日や、今日や、明日のこと。

【変化・変容】

SWCCは、構造改革により成長フェーズへの移行・脱却を図ります。「変化を恐れずチャレンジするスピリット」と「ROIC経営による“稼ぐ力”の底上げ」「M&A、社内ベンチャーなど既存の枠にとらわれない積極的な投資」で新しいSWCCへの変化を目指します。

この先も、人が和やかに生きるために。

いつかの、愛すべきあたりまえのために。

人を想う品質と信頼で、応えていく。

【社会貢献】

創業から87年間、製品を通してインフラに関わり、社会の役に立ち続けてきたことは、SWCCの大きな誇りです。それを未来へつなぐために、社会課題（再エネ、労働人口不足など）への対応と、品質に対する信頼性の向上に取り組み続けていきます。

だから、情熱と輝きをたやさない。挑戦をやめない。

【人的資本】

SWCCの成長の源泉は人材です。「多様な人材の活用」「変わることを恐れない人材の育成」「働きがいのある仕事、職場づくり」を進め、社員が高いエンゲージメントを持つ企業グループを目指します。

いま、あたらしいことを。

いつか、あたりまえになることへ。

【価値創造】

長年培った技術・ノウハウを新市場・新領域に展開し、未来の新たな価値、常識を創り出します。「創業時からのチャレンジスピリット」を全員が持ちながら、「モノ売りからコト売りへ」「ソリューション提案型メーカーへのシフト」などの変革を推進します。

Trajectory of Value Creation

SWCC 誕生に至るまでの価値創造の軌跡

2023年4月1日、昭和電線ホールディングス(株)は昭和電線ケーブルシステム(株)、昭和電線ユニマック(株)と統合し、SWCC株式会社として生まれ変わりました。1936年の創業以来、電線・ケーブルを中心とした製品を世の中に送り出し、インフラ製品を通じて皆さまの生活を支える企業であることを目指してきました。新たなSWCCグループはこれまでの活動にとどまらず、技術とアイデアでより困難な社会課題に挑戦し、多くのソリューションを提供できる企業となるよう取り組んでいきます。

1936～

躍動期



SWCCの始まり、「昭和電線電纜株式会社」の誕生。

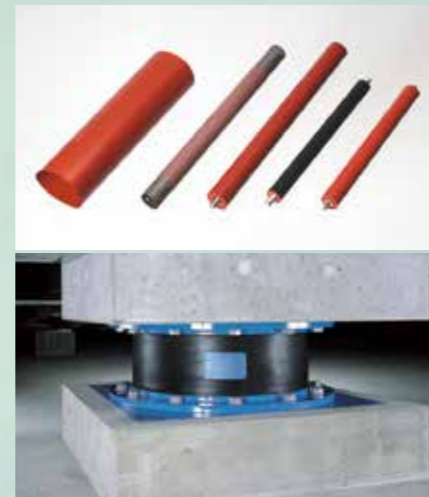
1936年、東京電気株式会社(現 株式会社東芝)の電線部門から独立した、SWCCの前身となる「昭和電線電纜株式会社」。他に先駆けて世界最新鋭のドイツ製圧延機を導入し、川崎工場(神奈川県)を拠点に電力・通信ケーブルの製造・販売を開始しました。



ケーブル業界をリードする取り組みを次々に展開。

1940年-50年代、株式上場、海外との技術提携、生産拠点の拡充など、順調に成長軌道を描きました。1969年には、無酸素銅の品質追求や製造設備の省スペース化を目指して、GE社のディップ・フォーミング・システムを日本で初導入しました。

1970s～



既存事業を深耕するとともに固有技術を生かして新領域へ。

1970年代、リアモーターカー向けの超電導線や電子複写機用ヒートローラなど、時代のニーズをとらえた製品づくりを展開。また1985年には電線から派生した技術を生かして、今や免震システムに欠かせない存在となっている積層ゴムアイソレータにも参入しました。

2000s～

充実期



持株会社体制のもと、自社ブランドで次世代市場を開拓。

2006年に持株会社体制に移行し「昭和電線ホールディングス株式会社」へ商号変更。コンパクト型電力機器用製品群「SICONEX®(サイコネックス)」、高機能無酸素銅「MiDIP®(ミディップ)」などの独自ブランドの展開を開始し、電力インフラ強靱化、自動車の電動化など社会課題の解決にも寄与する新市場への対応を強化しました。また2000年代は1990年代からの海外事業をさらに進展させました。



2023

SWCCグループとしての出発



より戦略的なグループ経営で、さらなる企業価値の創出を目指す。

グループ経営体制を再編し、SWCC株式会社へと商号変更を行いました。連結子会社昭和電線ケーブルシステム株式会社および昭和電線ユニマック株式会社を吸収合併し、戦略立案と実行のスピードを加速するために純粋持株会社から事業会社へと移行しました。グループの略称として長年使用してきたアルファベット4文字「SWCC」を新たな商標に用いることで、これまでに培った企業ブランドを維持しつつ、イメージを刷新し、未来に向けた企業変革と成長を加速していきます。

》社会イノベーションを支えた価値創造

- 設立当初より電力ケーブル、通信ケーブルを製造、社会インフラの構築を支える
- 独自のゴム配合技術で、地震の揺れから人命と財産を守る免震部材・制振部材を生産
- 情報化時代の本格的到来を見据えて、光ファイバの製造を開始
- OA化の主役となった電子機器、コピー機の中核となる精密デバイスを提供



》社会イノベーションを支えた価値創造

- モビリティ・医療・ロボットなどの先端領域に高品質な銅銀合金線を提供
- データセンターで光ファイバの大量敷設に活躍するローラブルリボン「e-Ribbon®(イーリボン)」を開発
- 施工技術の維持・強化が求められる電力市場の課題に対応する「SICOPLUS®(サイコプラス)」を展開
- 発電した電力の有効利用に貢献できる超電導ケーブルシステムの開発



Business and Presence

事業活動と価値創造の源泉

SWCCの事業領域と強み

エネルギー・インフラ事業

社会基盤をつくるSWCCグループの中核事業

当社グループの中核事業であり、創業以来電線・ケーブルを中心とした製品を世の中に送り出し、社会インフラを支えています。発電所から家庭までをつなぐ多彩な製品、地震や火災などの災害から人命やインフラを守る製品も扱っています。電力ケーブル、電力機器製品、免震製品などを時代のニーズに適合させ、新しい時代を支える高品質な製品やソリューションを追求。注力製品である「SICONEX® (サイコネックス)」を中核に、SICOPLUS® (サイコプラス) 戦略による、電力市場でのソリューションビジネスを展開しています。

電装・コンポーネンツ事業

独自技術の優位性を生かし、世の中の進化を加速する

高品質な性能を有する素材技術を核に、成長市場での圧倒的な地位確立に挑んでいます。日本唯一のディップ・フォーミング・システムにより製造される無酸素銅「MIDIP® (ミディップ)」が車載分野で、高強度、高導電率、耐屈曲性に優れた「銅銀合金」が医療分野で、高い評価を得ています。今後も、国内マーケットのみならず海外に視野を広げて製品競争力を一層強化していきます。グループ会社間で連携し、クオリティ・コスト・スピードを三位一体で革新しながら、お客さまの期待と要望に応えます。

通信・産業用デバイス事業

高速・大容量通信時代を、多彩なソリューションでリード

情報通信に不可欠な通信ケーブルをはじめとし、家電・電子機器内のワイヤハーネス、複写機用部品、FA用ケーブルなど多種多様な分野のデバイス製品を提供。国内外のグループ企業、パートナー企業と連携することで、最新の生産技術を多様な製品開発に応用しています。人と人、人とモノ、モノとモノがあらゆる場所につながる時代。豊富な技術と経験を発揮しながら、多彩なデバイスソリューションのさらなる高品質化、高付加価値化を推進し、つながる社会の進化を支えています。

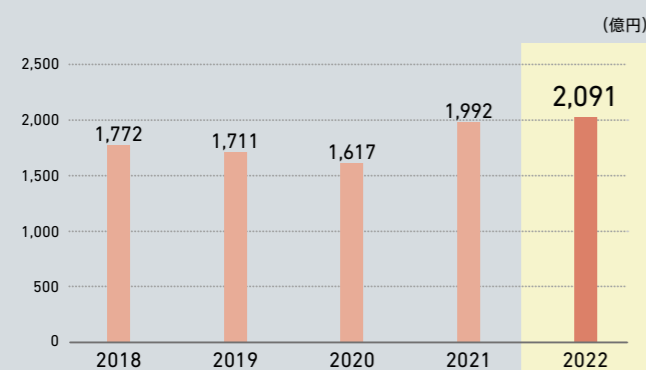
新規事業

社会にイノベーションを起こす成長市場を開拓

自動車、FA、医療、AI、ロボットなどの成長分野で、コア技術を生かした独自の製品を展開します。EV化、自動運転化が急速に進行する自動車分野では、車載用アルミケーブル、ワイヤレス給電コイル、高速伝送ケーブルなどを開発。また、今後は次世代新幹線向けの製品拡充や、超電導製品の商用化に向けた取り組みを進めていきます。他の事業セグメントと連携しながら、既存の仕組みや慣習にとらわれることなく付加価値の高い製品とソリューションを開発し、SWCCグループの新しい可能性を創っていきます。

SWCCのプレゼンス

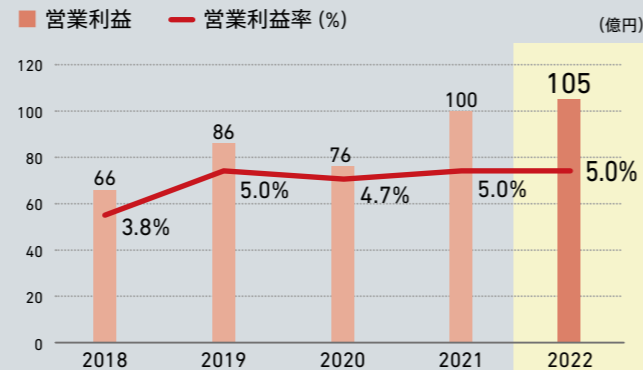
売上高



国内の電力インフラ向けの安定した需要に加えて、国内の建設関連向け(エネルギー・インフラ事業)の安定した需要の取り込みにより出荷増となりました。また銅価上昇などの影響もあり、自動車減産影響による出荷減があったものの売上高は2021年度比5.0%増となりました。

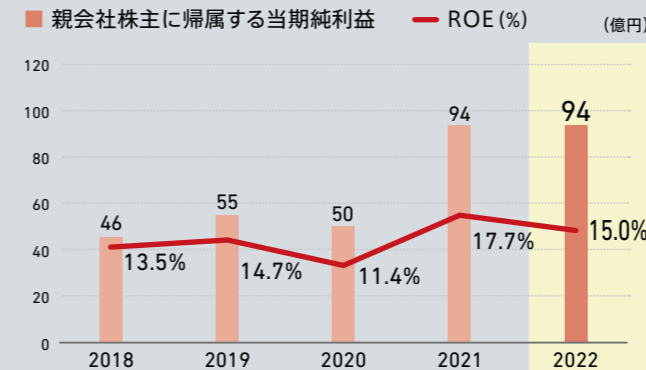
対象は旧昭和電線ホールディングスおよび連結子会社

営業利益/営業利益率



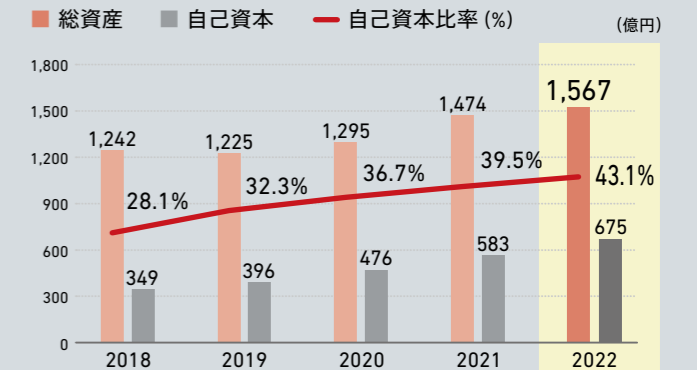
国内の電力インフラ向けの安定した需要に加えて、国内の建設関連向け(エネルギー・インフラ事業)は、合併会社の製販統合による収益改善および安定した需要の取り込みにより、自動車減産による収益への影響(電装・コンポーネンツ事業)などがあったものの営業利益は2021年度比4.3%増となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益/ROE



当連結会計年度においては、和解金や事業構造改善費用を計上したものの、前述の営業利益増に加えて、退職給付信託の返還益なども計上した結果、親会社株主に帰属する純利益は2021年度比微増となりました。

総資産/自己資本/自己資本比率



主に銅価高騰の影響による棚卸資産の増加や退職給付信託返還に伴う投資有価証券の増加による固定資産増により、総資産増となりました。自己資本は株主への増配当を実施したものの、94億円の最終利益を計上したため、自己資本増となり、自己資本比率も43.1%となりました。